

和の伝統文化

芸術学科 和の伝統文化コース

TR テキストレポート科目 TW テキスト作品科目 TX テキスト特別科目 S スクーリング科目 GS 芸術学舎科目 WS Webスクーリング科目 必 必修科目 選必 選択必修科目 選 選択科目

※下記でご紹介する科目は2017年度開講予定のものです。一部、変更になる場合があります。

和の伝統文化コース専門教育科目

STEP①

STEP②

さまざまな伝統文化の、本物の息吹に触れる。

科目名	サブタイトル	S/T	必/選	単位数	単位修得試験	履修内容
1年次～						
伝統文化入門	伝統文化の学び方	S	必	2		「和の伝統文化」を学ぶ上で必要となる学問上の基礎知識を身につけるとともに、学習や研究の進め方・考え方等について学ぶ。
伝統文化基礎講義	伝統文化の考え方	TR	必	2	有	
伝統文化論 I-1	言葉の文化	TR	必	2	有	日本の伝統文化を、「言葉の文化」、「音の文化」、「身体の文化」、および「心の文化」という観点から眺め、それぞれの角度から見えてくる文化の特色を把握・理解するとともに、その成果の記述・表現方法を学ぶ。
伝統文化論 I-2	音の文化	TR	必	2	有	
伝統文化論 I-3	身体の文化	TR	必	2	有	
伝統文化論 I-4	心の文化	TR	必	2	有	
伝統文化論 II-1	研修報告	TR	選	2	有	「研修報告」として、各自で伝統文化の研修を受けた成果を学術的に分析・検討し、レポートという形で報告する。
伝統文化論 II-2	茶の湯を学ぶ	TR	選	2	有	「茶の湯」および「煎茶」に関するテキスト科目。茶の湯、煎茶は、いったいどのような歴史的背景をもって成立し、展開してきたのか。茶の湯、煎茶の文化的な流れを、茶の湯では日本文化への関わりと影響という点から、煎茶では喫茶文化とくに近世の文人たちの果たした役割という点から考える。
伝統文化論 II-3	煎茶を学ぶ	TR	選	2	有	
伝統文化実践 I-1	伝統芸能 1	S	選	1		「伝統芸能」、「庭とやきもの」、および「室礼と道具」という観点から、和の伝統文化の土台となる諸要素について幅広い知識を得るとともに、実践を通じてその技術や考え方に触れる。
伝統文化実践 I-2	伝統芸能 2	S	選	1		
伝統文化実践 I-3	庭とやきもの	S	選	1		
伝統文化実践 I-4	室礼と道具	S	選	1		
伝統文化実践 II-1	伝統邦楽 1	S	選	1		「伝統邦楽」、「花道」、および「茶道」といった日本の伝統文化を代表する具体的な諸芸道に関して、実践を通じてそれらの背後にある哲学に触れ、その考え方を考察する。
伝統文化実践 II-2	伝統邦楽 2	S	選	1		
伝統文化実践 II-3	花道	S	選	1		
伝統文化実践 II-4	茶道	S	選	1		
伝統文化 I-1	日本の芸能 1	S	選	2		「日本の芸能」を学ぶ科目。能楽や歌舞伎といった代表的な芸能文化について、その歴史や思想に関する基礎知識を身に付けた上で、実習を交えながら技術面・観賞面での重要なポイントを学ぶ。
伝統文化 I-2	日本の芸能 2	S	選	2		
伝統文化 I-3	日本文化と海外文化	S	選	2		「日本文化と海外文化」および「日本の書と中国の書」に関する科目。海外文化との比較において日本文化の特質を探る。特に書について、日本と中国における書の文化を交流・比較の観点から考察する。
伝統文化 I-4	日本の書と中国の書	S	選	2		
伝統文化 II-1	茶の湯の世界	S	選	2		「茶の湯の世界」および「煎茶の世界」に触れる科目。茶の湯に関してその成り立ちと展開について講義と研修を通して学ぶとともに、抹茶に対して煎茶と称されるものがいつごろ誕生し、どのような展開を経て今日に至っているのか、また煎茶にはどのような種類があるのかを講義と演習を通して体験的に学習する。
伝統文化 II-2	煎茶の世界	S	選	2		

自分の研究テーマと、その手法をさぐる。

科目名	サブタイトル	S/T	必/選	単位数	単位修得試験	履修内容
2年次						
論文研究基礎		S	選	1		「論文研究」の前段階にあたる科目。論文をどう客観的に読み、問題の所在を見出ししていくかを学ぶ。グループに分かれて実際に論文を読み、グループ内討議を経て問題を抽出していく。こうした実践を経ることによって先行研究に対する客観的批判力を養う。

3年次

伝統文化 II-3	日本芸能史の諸問題	S	選	2		「日本芸能史の諸問題」および「芸道思想の諸問題」として、日本芸能史および芸道思想にまつわる学問上の諸問題を大学院レベルで考察する。
伝統文化 II-4	芸道思想の諸問題	S	選	2		
論文研究 I-1		S	必	1		「卒業研究」の前段階として、研究論文(あるいは研究報告書など)とは何かを理解し、テーマの定め方、資料の収集法、論の構成や書き方、テーマに即した研究成果の報告法を学ぶ。さらに自ら選んだテーマに関する研究の進捗状況をゼミ形式で発表し、指導教員および受講生と討議する。
論文研究 I-2		TX	必	1		「論文研究 I-1」のゼミの際に与えられた課題を踏まえてレポートを作成し、講評を受ける。
論文研究 II-1		S	必	1		「論文研究 I-1」「論文研究 I-2」での指導・講評を踏まえ、各自の研究の進捗状況をゼミ形式で発表し、指導教員および受講生と討議する。
論文研究 II-2		TX	必	1		「論文研究 II-1」のゼミの際に与えられた課題を踏まえてレポートを作成し、講評を受ける。

論述か、実践で、自分の研究成果をあらわす。

科目名	サブタイトル	S/T	必/選	単位数	単位修得試験	履修内容
4年次						
卒業研究		TX	必	8	—	各自の設定したテーマにもとづく研究を仕上げる科目。「論文研究I-1～2」「論文研究II-1～2」を経て形になってきた研究成果を、指導教員によるレポート添削および個別面接指導を通じて「最終成果物(卒業論文あるいは卒業研究報告書など)」という形で完成する。

芸術学科専門教育科目

芸術学科では、コースの枠を越えて自由に選択することのできる科目群があります。

※各コースの必修科目もあります。(歴必修=歴史遺産コース必修、文必修=文芸コース必修、和必修=和の伝統文化コース必修)

科目名	S/T	必/選	単位数	単位修得試験	履修内容
芸術学概論	S	選	2		さまざまな時代の芸術理論を参考にしながら芸術の基礎的な諸問題を概観する。
日本美術論	S	選	2		日本美術史の時代的特徴、あるいはジャンルの特徴を年代ごとに取り上げ、細部にわたる講義を行う。
西洋美術論	S	選	2		古代から近代に至るヨーロッパ美術の流れを、建築、彫刻、絵画、工芸の各ジャンルの作品を通して、体系的、かつ具体的に理解する。
アジア美術論	S	選	2		[中国] 世界でも類を見ない独特な美術世界を築き上げてきた中国美術について、中国の長い歴史と広大な大地を通して見ていく。 [朝鮮半島] 高麗時代から李朝時代までの約千年の美術史を、仏教絵画、陶磁、世俗画の分野で概観する。

科目名	S/T	必/選	単位数	単位修得試験	履修内容
仏教美術論	S	選	2		東アジア諸国に広がっている仏教美術について、その源流となる古代のインド仏教美術を中心としながら、様々な歴史的・地域的展開を概観する。
音楽文化論	S	選	2		音楽を文化社会現象としてとらえ、「音楽は素朴に聞いて楽しめばいい」という命題に潜む「罣」について理解したうえで、音楽の楽しみ方を学ぶ。
文化芸術遺産フィールドワーク 1	S	選	1		芸術学や歴史遺産の視点から、京都・滋賀の神社仏閣、博物館に伝えられる文化芸術遺産について学ぶ。 1日目に教室の対面授業によって訪問先について詳しく学び、2日目は学外研修として学んだ訪問先を実際に訪れる。
文化芸術遺産フィールドワーク 2	S	選	1		
文化芸術遺産フィールドワーク 3	S	選	1		
文化芸術遺産フィールドワーク 4	S	選	1		
地域芸術学フィールドワーク	S	選	1		尾道、沖繩など、日本各地のさまざまな芸術遺産について、地域での現地講義を行う。
歴史遺産学概論	S	選 ※歴必修	2		歴史遺産学を学ぶために大切なふたつの分野(もの(文化遺産))と(ところ(歴史文化))について、歴史文化、文化財科学、保存修復などの各分野の専門教員がおこなうオムニバス講義。
京都の歴史	S	選 ※歴必修	2		[京都文化論]日本の歴史文化を学ぶために理解しておきたい基本的なことから、京都の歴史を通して、とくに古代から近世の「文化史」という視座から学習する。より深く京都の歴史を知り、さらに日本文化の諸相への歴史的理解を目指す。
文化史特論	S	選 ※歴必修	2		中世史、芸能史、美術史の各研究者による自身の研究の紹介とともに、研究課題に対しどのように新しいアプローチをするのか、どのように史料を扱うのか、どのように論文として構成するのかなどを具体的に語っていただき、論文に取り組むためのさまざまな方法論を学ぶ。
史料学基礎	TR	選 ※歴必修	2	有	歴史を理解し調べる際に必要となるのは遺されてきた史・資料である。歴史的な史・資料には様々な種類があり、その特質など史料論を理解する科目。
史料講読基礎	TR	選 ※歴必修	2	有	歴史的な史料の読み方を実践的に学ぶ。活字化されている史料について、古代・中世・近世・近代と各時代のものを取り上げ、基礎・応用と段階を踏んで理解出来る科目群。
史料講読応用	TR	選	2	有	
文献資料講読	S	選	1		古文・漢文などの歴史的な史・史料について、それらを読むための初歩的な科目。漢文の訓読法や訳し方、変体仮名などの基礎を学ぶ。
日本の古典を読む	S	選	2		古典文学の傑作のテクストに基づき、その構想力の広がり学ぶ。
文章表現基礎	S	選 ※文必修	1		一般的な文章表記のルールからはじめ、授業レポートだけでなく、「論文研究」そして「卒業研究」の執筆に必要な論述のテクニック、参考文献の扱い方で射程に入れ、段階的に複雑な文章を学習する。
日本文化の源流	TR	選	2	有	[和の伝統文化]を幅広い観点から概観して基礎知識を得る為のテキスト科目群。諸々の日本の伝統芸術の源流にある文化や思想を考察する科目、日本の伝統文化と周辺地域の文化の交流史を学ぶ科目、および和食をはじめとする日本の生活文化の背後にある思想を学ぶ科目から成る。
日本文化と東アジア	TR	選	2	有	
日本の生活文化	TR	選	2	有	
伝統芸能の諸相	S	選 ※和必修	1		日本の伝統芸能は成立した時代によって異なる特質を有しています。この科目では、雅楽や今様、田楽、能楽など多様な芸能をとりあげて、時代背景をふまえながらその表現の魅力を考察します。また諸芸能の相互の関係についても学びます。
伝統芸能と工芸	S	選 ※和必修	1		能や歌舞伎といった伝統芸能には舞や音楽以外にも様々な芸術が関わっています。この科目では特に能面などに代表される工芸分野と伝統芸能の接点を探ります。
絵画と日本文化	S	選 ※和必修	1		絵画もまた日本の伝統文化を語る上で欠かせないものです。この科目では室町時代の禅宗と絵画、あるいは近代日本における絵画など、多角的な視点から日本の絵画文化を学びます。
詩歌と日本文化	S	選 ※和必修	1		和歌や漢詩は古代より日本の伝統芸術の中核を為すものでした。その伝統を受け継いで室町期には連歌が、江戸期には俳諧が隆盛しますが、このような詩歌文化に関して考察する科目です。
花道文化の展開	S	選 ※和必修	1		日本の代表的な伝統文化のひとつである花道は室町時代に形を整え、江戸時代を通じてその思想を発展させてきました。本科目ではその歴史と思想を概観します。
伝統文化の空間	S	選 ※和必修	1		伝統文化が行われる空間、それは伝統文化の内容と切っても切り離せないものです。本科目では茶室や庭園をはじめとする空間の観点から伝統文化の「かたち」を考察します。
室礼ともてなし	S	選 ※和必修	1		お花やお茶、お香をはじめとする室内芸道において、室礼の知識は欠かせないものです。室町時代以降整備されてきた室礼の様式と「おもてなし」の心を学ぶ科目です。
茶道文化の展開	S	選 ※和必修	1		戦国時代から今日に至るまで日本の伝統文化に大きな位置を占めてきた茶道について、歴史の流れや茶人の思想を概観する科目です。
論文研究Ⅲ	TX	選	2		[論文研究I-1～2][論文研究II-1～2]の単位を修得後、「卒業研究」の着手までに1年以上のブランクができてしまう場合に、「卒業研究」の準備段階にあたるレポートを作成・提出し、教員からの添削・指導を受け、空白期間の学習を補う。

科目名	S/T	必/選	単位数	単位修得 試験	履修内容
論文研究基礎演習	TX	選	2		論文を批判的に読むことを学ぶ。課題として与えられた芸術学、歴史遺産、伝統文化、文芸に関する論文からどれか一つを選び、批判的に論文を読むことを実践的に学習する。先行研究とどう向き合い、新たにどのような問題提起ができるのかを自ら考察する。

コースからのスクーリング開講に関するお知らせ

週末を中心とした3日間の開講のほかに、2日間で履修可能な科目が開講されます。卒業要件に必要な単位を東京で開講するスクーリングだけで修得することも可能です。ただし、京都のみ開講となる科目があるため、選択によってはその限りではありません。